



2 結婚・家族について考えよう

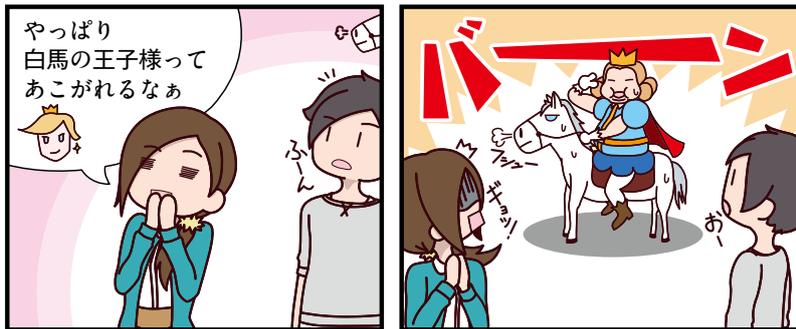
仕事

結婚・家族

妊娠・出産

子育て

高年期



結婚をして家族を持つことは、少し前の時代までは、ごく一般的でしたが、近年ではそれがゆらぎ始めています。この章では、結婚・家族を取り巻く現状と課題を知り、豊かで希望にあふれたライフプランづくりにつなげていきましょう。



1 結婚についての現状



あなたたちは、結婚についてどのように考えていますか？

まだ、細かくは考えてないですけど、30歳くらいまでには結婚したいと思ってます。

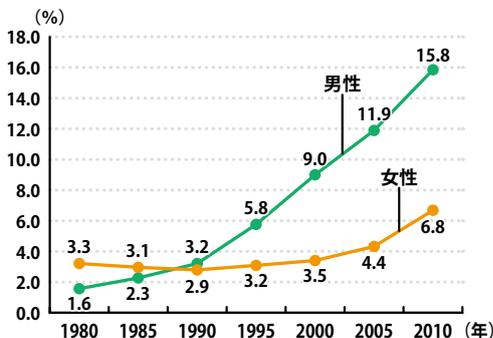


僕もいつかは結婚したいなあ。



2人とも結婚はしたいと思っているのね。では、岐阜県の結婚の現状がわかる2種類のデータを見てみましょう。この2つからどんなことが見えてくるのでしょうか？

図2-1 生涯未婚率（岐阜県）の推移



出典：総務省「国勢調査」
備考：生涯未婚率は、45～49歳と50～54歳未婚率の平均値であり、50歳時の未婚率を示す。

図2-1は…。結婚しない男性が増えた、ってこと？



そうですね。1980年と2010年を比べると、男性の生涯未婚率は約10倍になっている。女性も男性ほどではないけれど、1990年以降は増加していて、2005年～2010年の増加率が高いですね。



図2-2 平均初婚年齢（岐阜県）



出典：厚生労働省「人口動態統計」

図2-2の方は、約10年間で初婚年齢が1歳以上遅くなっている、ってことがわかるね。僕たちの頃にはさらに遅くなるのかな？



+ 解説 +

婚姻数の推移*は、近年では増減を繰り返しており、2013年の婚姻数は、66万組と発表されています。これは、戦後最も多かった1972年と比べると約44万組も減っています。その背景には人口の減少も

ありますが、注目すべきは「生涯未婚率」の増加と「平均初婚年齢」が上がっていることです。結婚については、未婚化・晩婚化が進んでいるといえます。

*出典：厚生労働省 人口動態統計



2 未婚化・晩婚化の原因



結婚についての現状として、男女ともに未婚化・晩婚化が進んでいることがわかりましたが、その理由は何だと思いますか？

考え方が自由になって、結婚することが当たり前とは思わなくなったから？



それもあってでしょうね。でも2014年の岐阜県の調査*で、独身者を対象に結婚への考えを調べたところ、男性は87.3%、女性は91.9%の割合で「いずれ結婚するつもり」と回答しています。一方、「一生結婚するつもりはない」とする独身者は、男性は12.7%、女性は8.1%となっています。

*出典：岐阜県 平成26年 「少子化に関する県民意識調査」

男女どちらも、ほとんどの人が結婚を望んでいるということですね。それなのにどうして、未婚化・晩婚化が進んでしまうのでしょうか？



そこで、図2-3の「結婚していない理由」を見てみましょう。

図2-3 結婚していない理由

性別	順位	理由	割合
男性	1位	適当な相手にめぐり合わないから	42.7%
	2位	経済力がないから	40.0%
	3位	結婚する必要性を感じないから	23.6%
女性	1位	適当な相手にめぐり合わないから	44.9%
	2位	今は、仕事(または学業)にうちこみたいから	25.7%
	3位	結婚する必要性を感じないから	16.2%

出典：岐阜県 平成26年 「少子化に関する県民意識調査」



男女ともに「適当な相手にめぐり合わないから」がトップですね。結婚は望んでいるけれども、結婚相手との出会いを待っている感じですね。



2位の理由になると、男女で差があるね。男性は「経済力がないから」か…。これは非正規雇用者が増えていることも関係ありそうだね。収入が少ないと家庭を持とうという気持ちになりにくいだろうからね。



+ 解説 +

岐阜県の独身者を対象にした調査では、男女どちらも「適当な相手にめぐり合わないから」が、結婚していない理由のトップになっています。次いで2位は男女で異なり、男性は「経済力がないから」、女性は「今は仕事(または学業)にうちこみたいから」となっています。非正

規雇用者が増加しているなか、男性の場合は経済的な状況が結婚意欲に影響を及ぼしていることがわかります。また、女性の場合は、高学歴化や女性の社会進出を背景に、仕事(学業)へのモチベーションが高く、結婚を先のばしにする傾向がみられます。



Check Point!!

結婚しない人が増えている、結婚する年齢も遅くなっている(未婚化・晩婚化)。

未婚化・晩婚化が進む背景には、男性の雇用不安や女性の社会進出などが影響している。



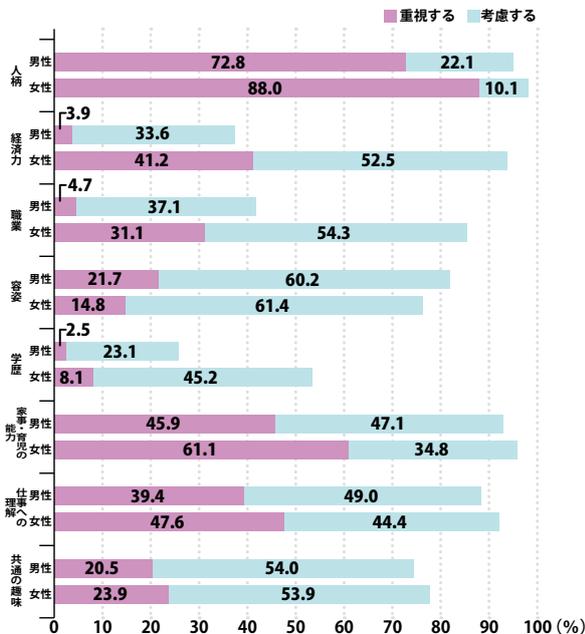


3 結婚相手に求める条件



前のページで、結婚していない理由のトップは、男女どちらも「適当な相手にめぐり合わないから」になっていましたね。では次は、結婚相手にどんな条件を求めているかを見てみましょう。

図2-4 結婚相手の条件として考慮・重視する割合（2010年）



出典：平成25年版厚生労働白書 一若者の意識を探る 図表2-2-3.4

結婚相手の条件、ってことは…。女性が、どんな男性を結婚相手に求めているかを知って、それに合うようにしていけば、将来はモテモテになれそうだね。



それはなかなか難しそうよ。女性が男性に求める条件の1位は「人柄」。次いで「家事・育児の能力」「仕事への理解」そして「経済力」となってるわよ。



まじかー。ハードル高いなあ。



先生のお宅では理想どおりですか？



夫の名誉のために、ノーコメントとします。

それって「理想とは違う」っていつてるのと変わらないんじゃないか…。



確かに。でも今思うと、若い頃に掲げていた理想ってあいまいなものですし、大切なのはお互いを信頼できるかということ。それは長年、お互いに築いていくものだと思います。はじめから100点満点を相手に求めるのではなく、お互いに努力して、相手にとっての合格ラインに近づいていけばいいのかなと思います。

先生、素敵～。



+ 解説 +

結婚相手に求める条件は、年齢や環境の変化によって変わっていきます。いわば、あいまいなものといえます。そのため、あまり理想や条件にこだわり過ぎないことが大切です。人生のパートナーとして信頼し合える関係を築き、相手に求めるばかりでなく自分自身を向上させていくことが大切です。



*①街コン

街とコンパの「コン」をつなげた造語。商店街などの振興を目的に行われる大規模なイベント。参加者は複数の飲食店を自由に行き来し、親睦を深め合うことができる。

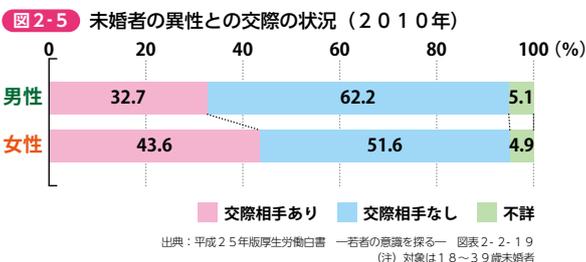
*②婚活パーティー

理想の相手を見つけ、幸せな結婚するためにさまざまな活動をするを「婚活」といい、その目的のために開かれるパーティーのこと。

4 恋愛と結婚



結婚願望を持ちながらも、実際には結婚が遠のいてしまうという現状を、どうすれば解決できるでしょうか。次は、結婚より前の異性との交際について見てみましょう。



あれ？図2-5を見ると、未婚の人の半分以上が「交際相手なし」ってなってる！



結婚願望があっても、交際相手がいないんじゃないじゃ結婚するのはなかなか難しそうですね。



図2-6 交際相手を持たない20代・30代男女の異性と交際する上での不安 (上位3位まで)

- 男性
- 1位 異性に対して魅力がないのではないか・・・46.0%
 - 2位 異性との出会いの場所がわからない・・・38.8%
 - 3位 どのように声をかけてよいかわからない・・・37.9%

- 女性
- 1位 異性に対して魅力がないのではないか・・・49.8%
 - 2位 異性との出会いの場所がわからない・・・47.1%
 - 3位 自分が恋愛感情を抱けるか不安だ・・・40.3%

出典：平成25年版厚生労働白書 一若者の意識を探る 図表2-2-23

交際相手を持たない理由の1位は「自分に魅力がないのではないか」だって。自分に自信が持てなくて、積極的になれないのかな…。



そうね。自分に自信を持つのは難しいけど、自分を磨く意識を持つことが大切ね！外見だけでなく、中身も磨かないとね。



現代は恋愛結婚がほとんどですが、あなたたちのお父さん、お母さんが結婚した頃、あるいはそれより以前は、お見合い結婚も一般的なものでした。異性に対して積極的になれない人にとって、お見合いは効果的な出会いの場の一つかもしれませんね。

じゃあ、街コン^{*1}や婚活パーティー^{*2}は、現代風のお見合いって感じですね。



+ 解説 +

恋愛に限らず、現代は「他者との関係づくり」に悩んでいる人が増えてきています。恋愛はもちろん、友人をつくるのが難しいと感じる人も増えているのです。自分に自信がないから、他人に対して消極的になってしまうのだとすると、やはり自分を認める、自分を肯定できるように

することが大切になってきます。自分に自信を持てるようになるためには、「自分を磨く」という努力も必要です。また、地域が運営する婚活サポート事業などを通して、異性と接する機会を増やすことも大切です。



Check Point!!

- 自分を磨いて自信を持とう。
- 出会いは来ない、自分でつくろう。



コンサポ・ぎふ

「コンサポ・ぎふ」とは、結婚を考えながらも出会いの機会が少ない独身男女に、出会いの場を提供するため、岐阜県が運営する「ぎふ

婚活サポートプロジェクト」の通称です。プロジェクトに賛同した企業や県内市町村が実施する婚活イベントの企画・運営をサポートしたり、イベント情報の提供を行っています。





5 男女共同参画で乗り切ろう

男女共同参画とは「男性だから」「女性だから」といった考え方にとらわれることなく、男女の人権が等しく尊重され、自らの選択によって生き生きと活躍でき、能力や個性を発揮できることをいいます。



現代の若い人たちが、独身にとどまってしまう理由の一つに、「1 仕事について考えよう」の章でも学んだとおり、経済的な不安定さがあります。そこで、夫婦ともに就業して家計を支え合っていくことが必要になってくるのです。

図2-7 専業主婦世帯と共働き世帯の推移

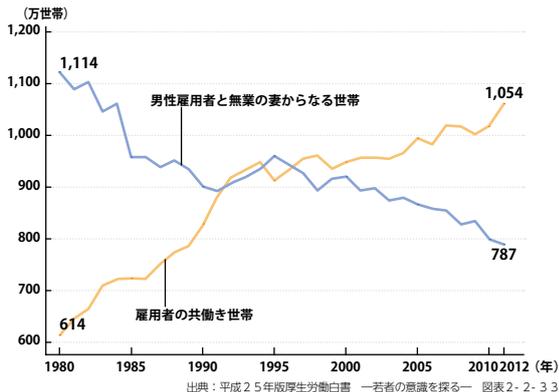


図2-7の変化を見ても、専業主婦は減って、共働き世帯は増加していますね。



僕の両親も共働きだよ。



補足

岐阜県は共働きの多い県であり、家計を夫婦で支えています。

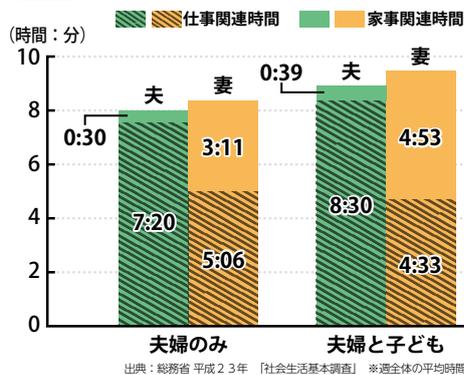
共働きの割合	岐阜	全国
	32.3%	24.5%

出典：総務省「平成22年国勢調査」(注) 数値は一般世帯総数に対する共働き世帯の割合



共働き世帯が増えているのがわかりましたが、では、共働きの場合、誰が家事をやっていると思いますか？

図2-8 夫婦が仕事と家事に費やす時間*の比率 (共働き世帯)



子どもがいてもいなくても、夫は1日30分前後しかやってないの？もっと家事をするべきよね！



僕は結婚したら、パートナーと一緒に積極的に家事も子育てもします！



+ 解説 +

男女ともに結婚生活を前向きに考えるためには、経済的な基盤づくりは不可欠です。夫婦2人で仕事をし、収入を得る生活スタイルが今後の主流になっていくでしょう。夫は家事を「手

伝う」ではなく、「一緒に家事をする」という発想への転換が必要です。安定した結婚生活が思い描ければ、結婚に対してもっと積極的になれるはずですよ。



Check Point!!

- 結婚に前向きになるためには男女共同参画を進めることも大切である。
- 男性も積極的に家事をすることが大事。

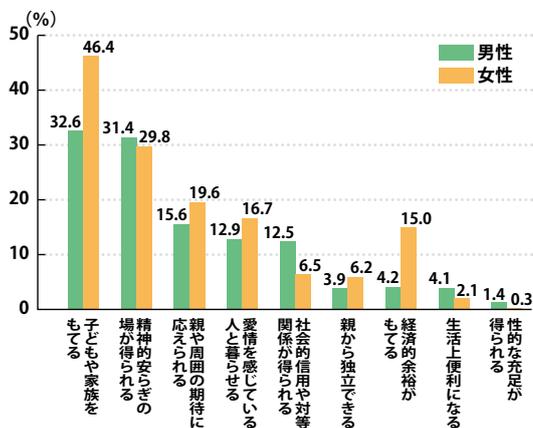


6 結婚することの良さについて考えよう



現代の結婚事情について見てきましたが、改めて、結婚することの良さって何だと思いませんか？結婚することの利点について調査した結果を見てみましょう。

図2-9 結婚することの利点（2010年）



出典：平成25年版厚生労働白書 一若者の意識を探る 図表2-2-16

やっぱり1位は「子どもや家族をもてる」ですね。私もそう思います。おばあちゃんになったとき、家族がいないのは寂しそう。



次に多いのが「精神的安らぎの場が得られる」かあ。一緒にいろんな事を考えてくれる相手がいるって心強いよね。仕事もがんばれそうだよ。

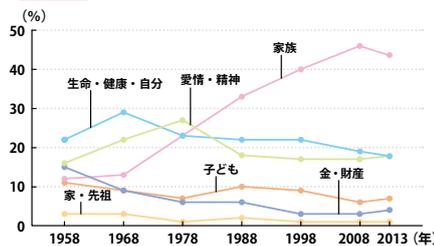


+ 解説 +

「あなたにとって一番大切なものは」という調査では、「生命・健康・自分」や「金・財産」を大きく引き離して、「家族」と答える人が40%以上を占めました（2008年）。1988年以降、一貫して「家族」がトップを占め、近年さらにその割合が伸びています。価値観が多様化しているといわれる現代にあっても、多くの人々が「家族」を一番大切なものと感じているのです。結婚は家族づくりの出発点です。ライフプランを考える上で、自分にとっての結婚、そしてその先にある「家族」のカタチをどうしていきたいか、考えてみましょう。



図2-10 あなたにとって一番大切なもの



出典：統計数理研究所「国民性の研究全国調査」

結婚と仕事

高山市 沖本尚美さん

私は高校を卒業後、教職や図書館司書を目指し東京の大学に進学しましたが、いろいろな縁もあり、航空会社でキャビンアテンダントをすることになりました。フライト、広報もそれは幸せな仕事環境でしたが、30歳になり、キャリアよりも学生時代から付き合っていた彼との結婚や、未来の子ども、実家の旅館や両親のことを考えて、故郷で若女将をする決心をしました。

ただ夫は高知県の生まれで長男だったため、向こうの家との綱引きもあり大変でしたが、こちらと一緒にきてくれました。慣れない旅館業と山村の暮らしですが、伝統行事などにも積極的に参加していくうちに、地域の人たちも夫を温かく受け入れてくれて、大変嬉しく思っています。

ここは水や空気がおいしく、温泉もあります。そしてはっきりとした四季があり、自然が身近に感じられると

ころです。一度地元を離れ帰ってきてはじめて地元の良さに気づき、そんな素晴らしい岐阜で生まれ育ったのだと実感しています。また、人の営みが温かな中で、のびのびと子どもを育てられるというのはとても良いことだと思います。

旅館業は家族総出の仕事です。家族みんなでいろいろな仕事を分担して行っているのですが、子どもたちもとても頑張ってくれています。私たちは子どもたちの様子が身近で、子どもたちは私たち親の仕事を自分の目で見ることができ、大切なものを近くで感じられるこの環境こそが、家族にとって一番だと改めて思います。



旅館を営む沖本さん夫妻

結婚・家族について考えよう



7 家族について考えよう

図2-11 様々な家族の例

家族構成による例

- 拡大家族 (大家族)
- 核家族 (父母と子ども) …………… (夫婦2人) …………… (ひとり親と子ども)
- 単独世帯

住まい方による例 ■ 夫と妻の住居が異なる別居婚

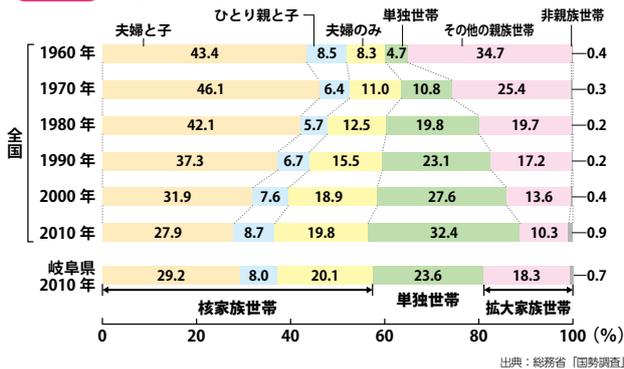
生活の仕方による例

- DINKS (ディンクス) (Double Income No Kids) 子どもを持たない共働き夫婦
- DEWKS (デュークス) (Double Employed With Kids) 子どもを持つ共働き夫婦



現代は、家族構成も、住まい方も多様になってきています。昔と今とでどんな変化があるか見てみましょう。

図2-12 世帯構成の変化



へえ、単独世帯の増加率がすごいね。

夫婦のみの世帯も増えていますね。家族の規模が小さくなっているんですね。



そうですね。昔のように、おじいちゃん、おばあちゃん、場合によってはおじさん、おばさんともに暮らす拡大家族世帯 (大家族) は少なくなり、核家族世帯が主流です。中でも夫婦のみの世帯が増えるとともに、高齢者夫婦の世帯が増して、高齢者が高齢者を介護する「老老介護」のケースも増えてきています。

単独世帯が増えているのも気になるなあ。独身者とか、お年寄りの一人暮らしも増えているってことかな。

家族のにぎやかさとか、楽しさを感じられない世帯が増えているのって、残念なことよね…。

+ 解説 +

現代では、「家族はこうあるべき」「夫婦はこうあるべき」という固定的な考え方が薄れ、結婚観、家族観が多様化しています。また、若い世代が地元 (地方) を離れて、都市部で就職する「都市への集中化」が進み、若い世代、親世代ともに家族を構成する人数は小さくなっています。



*① 単独世帯

ひとり暮らしであること。未婚のほか、別居・離婚・死別・子の独立などにより単身で暮らしていること。

*② 核家族世帯

夫婦のみの世帯、夫婦と子どもから成る世帯、男親と子どもから成る世帯、女親と子どもから成る世帯のこと。

*③ 老老介護

高齢者が高齢者の介護を在宅ですること。親の介護をする子も高齢化している場合などを指す。

仕事

結婚・家族

妊娠・出産

子育て

高年期

3世代の家族が支え合って暮らすこと

恵那市 わたらい 度會和良さん

祖父母世代 昔から大家族でしたので、自然に同居をするものだと思っていました。留守にならないことや、母が介護を必要としたときに、誰かが家に居てくれることがとても心強いです。それに孫たちの笑顔を見ていると疲れも取れ、成長を近くで見守ることができて楽しい毎日です。幅広い世代との家族の関わりが、孫たちは色々な面でプラスになり、私たちも若くいられるのではと思います。

若夫婦世代 現在、親と一緒に仕事をしているため、同居することにしました。通勤の時間がないことや、

いつでも仕事の段取りなどの話ができることが良いと思います。生活面では、家賃などが要らず経済的で、子育ても助けてもらえ、さらに家事は分担できます。料理や風習なども教わることができ、子どもにとっても祖父母と一緒に暮らした方が色々学べるのではないかと思います。



度會さん一家 (写真 後列左端が和良さん)

大家族の生活

山県市 横山将宏さん

祖父母世代 結婚後離れて暮らしていた息子が同居を切り出してくれた時、素直にうれしかったです。大家族はいつも誰かが家に居るという安心感があり、孫のほんの些細な成長も身近で感じることができます。私たちが孫たちの精神的な逃げ場をつくり見守ることもでき、それが大家族の子育てならではの環境だと思います。家族一緒に時間を大切にしていきたいと思っています。

若夫婦世代 いつかはと決めていましたが、子どもが生まれたのをきっかけに同居を切り出しました。同居の良いところは、子どものことがとても大きいです。

具合が悪い時には相談ができ、アドバイスももらえます。また、何かをするときには祖父母に背中を押してもらえるため、同居の良さを感じています。近所付き合いも、同居なら地域に馴染みやすいと思います。同居は日本の文化でもありますしお勧めしたいです。



横山さん一家 (左から3人目が将宏さん)

8 まとめ

結婚は待っているだけでなく、自分磨きをして、積極的に行動しなくちゃと思いました。将来、大家族で暮らすのもいいですね。

家族を持つことの良さをもう一度考え直す必要があると思いました。

結婚して家族を持つことは、生きがいになり、喜びにつながります。また、それによってより豊かに社会と関わっていくことになります。次は家族の大きなイベント「妊娠・出産」「子育て」について考えてみましょう。



次に進む前に、この章を学んで気付いたことをライフプランシートに記入しましょう。